



ユーモアを交えながら健康づくりのポイントを説いた中路特任教授

短命県返上絶対できる

弘前 中路特任教授が講演

弘前市で6日、市の「健康づくりサポーター」らの研修会が開かれ、第71回東奥賞を受賞した弘前大学大学院医学研究科の中路重之特任教授が講演した。「短命県返上は絶対にできる。」

互いに励まし合い、健康づくりを楽しいものにし「ましよう」と呼び掛けた。

弘前文化センターで開かれた研修会は、青森医学振興会と同市が開催。ひろさき健康増進リーダーや食生

活改善推進員ら約230人が出席した。

中路特任教授は、長寿日本一を実現した長野県と本県とを比べ、40～60代の働き盛り世代の死亡率が高い本県の状況を解説。その多くが、がん、脳卒中、心疾患という生活習慣病が原因とした上で、「たばこを吸って、すぐ亡くなるのではなく、がんになるまで30～40年かかる。だからこそ、若い人や子どもに健康について教える取り組みが大事だ」と強調した。

同日はほかに、弘大医学部付属病院腎臓内科の島田美智子講師が、高血圧や糖尿病治療の重要性について講演した。（太田佳希）